

三田会の方々

元会長 奥村 栄吉 (S27文・S29経)

田無三田会が発足したのは昭和62年3月である。私が入会したのは平成2年4月である。もう20年以上も前の事になる。当時は田無駅北口の「末広」に1年に一回集まっているだけであった。もちろん田無と保谷の合併前なので「田無三田会」と云っていた。最初の頃は15人程度。増田純一さん、田中清さん、曾根原良仁さん、坂口光治さんなどはその頃のメンバーで、今でも元気に会に来られている。

だんだんメンバーが増えて、平成6年から会場をホテルプライゾンに移している。この頃は斉藤毅さんが幹事として全てを取り仕切っておられたので、一度当時の状況を詳しくお聞きしておくほうが良いと思う。

平成13年から「西東京三田会」となり、旧保谷地区の素晴らしい方が続々と入会された。(故) 斉藤達さん、増田純一さん、市川昌夫さん、田中清さんが歴代の会長をされた。私が会長を拝命したのは平成13年5月から平成17年までの間である。最初の会に集まっていたのは20人~30人位だったと記憶している。

私は皆さんに二ヶ月に一回役員会を開きましようかと提案した。というのは慶応義塾塾員課から卒業生の名簿を貰うと、当時市内に890人の塾員が居り、努力の仕方によっては会員の増強が可能であると考えたからである。幸いに保谷市市議会でトップ当選した石毛茂さん、と田無市市議会でトップ当選した蔵野雅章さんがいらして、その二人が会員募集を強力にしてくれた。また市報とかタウン紙にも広告を出した。お陰で1年後の平成14年5月の総会には47名の方のご出席を頂いた。

そこで、会長は任期を2期4年としそれ以上は重任しないこと、及び次の会長は4歳以上若い人とするとの内規を決めた。どうしてもこのような会は役員の年齢がだんだん高齢になることを避けたい為である。任期中の4年間に、私が常に叫んでいた事は「会員同士の親睦の会だけではこの会の存続意義は無い。西東京市民の為になることを、慶応義塾の為になることをして行こう」という事である。

後者については、平成15年4月に東久留米に在住しながら当会の会員であった、金田政也さん、山本永一さんが中心となり「東久留米三田会」を結成してくれた。弟の三田会の誕生である。これで先ず一つ慶應義塾に貢献する事ができた。

また西東京稲門会との交流も盛んになった。衆議員議員の松本洋平さん、都議会議員の石毛茂さん、市議会議員の蔵野雅章さん、そして西東京市長の坂口光治さんと顔ぶれが揃ったときもあった。

問題はもう一つの地域への貢献である。とりあえず地域の方々を対象に次のような講演会を開催した。

- ①15年3月に中田勲さんが中心になってコール田無で「グルメを支える食品と一安全」についての講演会

②15年12月に田中清さんと弘津力さんが音頭を取って、会員の村田高明さんの「冬に向か
っての健康—特に東洋医学から」の講演会を社会福祉法人田無の会「たんぽぽ」で開催

③16年4月に坂口光治さんのご努力で、社会福祉法人干曲会「健光園」で村田高明さんの
「東洋学」の講演会

3つともいずれも100人以上の市民が集まり盛大であった。しかし、単発的であり継続性
のない催しであった。

一方同好会の責任者が決められ、この方々が競って活躍されるので会員同士の同好も盛ん
になった

①15年10月、西東京三田会としてのゴルフコンペ。 担当大平一さん

②16年1月、コール田無でのダンスパーティー 担当 高梨勇一さん 和田実さん

③16年2月、ハイキング 担当 中田勲さん 石毛茂さん

④16年2月、カラオケ大会 担当 中野秀夫さん

⑤16年2月、グルメの会 担当 鈴木條吉さん

⑥16年3月、写真展 担当 直井徹也さん

⑦16年6月、会報「三田会ニュース・レター」の発行 担当 直井徹也さん

平成17年5月に私が会長を辞め、次に会長になられた高梨勇一さんが中野秀夫さんと一緒
になって素晴らしい地域貢献事業を始められた。ANAの羽田機体整備工場の見学会である。
市内の小学5年生を対象としてバスで羽田に連れて行くというのである。市の教育委員会、各
小学校とも大喜びの企画である。もう5年以上も続いており通算1100人以上の生徒が参加し
ている。私はただ地域貢献をしようとラッパを吹いていただけでした。それを高梨勇一さんが
実現してくれたのである。心から嬉しくなった。

此処で特に名前をお書きしていない人も大勢いる。これ等の方を含め三田会に入会してい
ろいろな方との交流ができた。いまはそれが私の財産の一つになっている。

[本手記は、ニュースレター7 (2010年12月発行)にエッセイとして寄せられたものです]